

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議における地域との関わり方を再度見直し、地域の民生委員さんなども含めて開かれた施設づくりを行う必要がある。	運営推進会議の運営方法や参加者を見直し、議事録についても施設に関わるすべての人が見れるよう工夫する。	コロナ禍が落ちついてきたことから、書面開催ではなく、対面での開催とし、ご家族様や地域包括支援センター職員、市職員だけでなく地域の代表者(民生委員など)にも声をかけ、開かれた施設作りを行います。	6ヶ月
2	8	権利擁護に関する制度の理解と活用について、管理者や介護支援専門員以外の職員の理解が乏しいことから、研修などを通じて理解を深める必要がある。	高齢者虐待防止だけでなく、権利擁護や成年後見制度などについて理解を深める機会を作り、すべての職員が統一した認識を持つことを目標とする。	オンライン研修や外部の研修を受講する機会を提供し、伝達講習なども積極的に実施する事で、すべての職員が均等に同じ理解度を持つことができるようにする。	12ヶ月
3	23	利用者様お一人おひとりの生活歴や生活習慣、趣味や嗜好などについて、ケアプラン作成時に介護支援専門員が情報収集しているが、すべての職員が明確に理解できるよう体系的な工夫が必要である。	利用者様に関わる全ての職員がお一人おひとりの生活歴や生活習慣、趣味嗜好などについて理解し、統一した声かけやケアができるようになる。	入居前の面談資料のフォーマットを見直し、生活歴や生活習慣、趣味嗜好などを記載する欄を作成し、それに基づいた個別ケアが実践できるよう取り組む。	6ヶ月
4	35	防災訓練について、コロナ渦のため、実践的な訓練が行えず、書面での訓練となっており、万が一の際に行動できるか不安が残っている。	日中および夜間の想定で実践的な訓練を行い、すべての職員が消火栓の使用方法や消火器の場所などを理解し、万が一の際に行動できるようになる。	コロナ渦が落ち着いてきた段階で、実践的な訓練を実施し、万が一の際の行動を把握できるようにする。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。